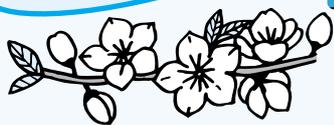


対馬釜山事務所だより



「コッノリ カブシダ。」 お花見、行きましょう。



春、春、完全なる春になりました。！！！！

今年の花冷えは雪までお供し訪れたので、春の到来は例年より待ち遠しかったですね。

皆様、「春」と言ったら何を思い浮かべますか？色で表したら何色ですか？

「ウ・・・春の色か・・・新芽の黄緑、椿の赤、もくれんの白、・・・

でも、やはり、春といったら、桜！桜のピンクじゃないの？」と言う方々が多いでしょう。

日本の人々にとって春のイメージはどうもピンク色みたいです。

それでは、韓国の人々にとって春は何色でしょう？

この質問をされると、ある絵を連想し歌を口ずさむようになりますね。

小さい頃によく歌った「ヒヨコが^{レンギョウ}連翹の花を口にくわえて春を迎えに行く」という童謡。この歌の通りに描いてみたら、気がつくことがあるでしょう？そうです。韓国人にとって春のイメージは明るく晴れやかなイエローです。道端に連翹の花が咲き始めると春だなあと感じます。その頃は、小学校の前にはふわっとした薄黄色の毛をしたヒヨコを売ったりもしますね。最近はいろんな色に染めたカラフルなヒヨコも売っているらしいのですが・・・

では、対馬で春の色はナンですか？そうは言っても、花色も様々で見えるもの全てに色ありと思ってしまうのですが、私は、純白のあの花だと言いたいです。あれ、あれ・・・そう、ひとつばたご。

咲き乱れたひとつばたごを初めて見た時、「時ならぬ雪景色」にうっとりしたことが記憶に新しいです。

ひとつばたごを韓国では「イパブナム」と呼びます。

「イパブ」というのは白ご飯という意味です。木の全体に咲いている白い花の様子が、まるでお茶碗い～っぱいに白いご飯をもりつけたように見えたのでしょうか？名前のもう一つ由来は、イパブナムの花が田植えの時期である節句の「立夏」の頃に咲くことから、「入夏木」(イパモ：ハングル読み)という名称が変化したとも言われています。「米の木」という名前のせいか、韓国では花の咲き具合を見て、その年の稲作出来栄を占ったそうです。白い花がたくさん咲くと豊年満作になるとか。

確かに、対馬でも花が多い年と、少ない年が有りましたが、今年の花の咲き具合はどうでしょうか？久しぶりにひとつばたごを見に対馬へ行こうかな。

対馬市の木として指定されたひとつばたごに、多くの多くの花が咲き、市民には幸せを、市にはますますの発展を、島には豊かさをもたらしてくれることを祈って見ます。その意味も込めて、皆さん、パート「コッノリ カブシダ！」(お花見、行きましょう。)



連翹の花と釜山タワー

金 京一、辛 恩京